

SOC360 農村社会論

3年 3,4クォーター

担当教員 伊藤 勇

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 一部導入

単位数 2

曜日・時限 火曜日・3時限

授業概要

現代日本の農村社会に関する社会学的研究の学習を通して、農村社会に対する基本的な視点と認識を獲得する。授業前半では、「家」と「村」という基礎概念をはじめとする社会学における農村研究の基本視点と代表的な調査知見等を学ぶ。後半では、戦後改革期から高度経済成長期、低成長・生産調整期を経てグローバリズム期に至る農村社会の変動・変容と現代農村の今日的課題について学ぶ。

到達目標

- ・農村社会学の基礎概念や基本視角を理解する。
- ・現代日本農村の変動過程について基礎的理解を得る。
- ・現代日本の農業・農村問題に関する社会学的研究について基礎的理解を得る。

先修科目

- ・国際地域概論
- ・社会学B（現代農村の社会学）
- ・社会学概論
- ・地域経済論
- ・都市コミュニティ論

教科書・参考資料等

教科書：鳥越皓之『家と村の社会学<増補版>』世界思想社。

参考書：蓮見音彦『苦悩する農村』有信堂

榊瀧俊子ほか『食と農の社会学』ミネルヴァ書房など。

授業の方法

講義形式の授業だが、一方通行の授業を避けるため、受講者全員に毎回短い感想メモを提出してもらう。

成績評価

成績評価には、①毎回提出する授業の感想メモ、②中間レポート、③期末レポート、計3種類の提出物を用いる。

成績

修学態度 (①)	20%
中間レポート (②)	30%
期末レポート (③)	50%

授業スケジュール

第1回：ガイダンスおよび序論

授業の概要・進め方・成績評価法の説明、

序論：農村社会学の基礎視角、日本農村の持続と変容をめぐって

第1部：「家」と「村」

第2回：「家」の論理（1）

2つの「家」、生活実態としての「家」、「家」・「家族」・「世帯」、 「家」と成員

第3回：「家」の論理（2）

日本人の祖霊観，家祖祭祀と家の永続性希求

第4回：「家」の論理（3）

家の連合，様々な民俗語彙，2つの親族組織（同族と親類）

第5回：「村」のしくみ（1）

「行政村」と「自然村」，「村」の二面性，村の組織と役職，村の財政

第6回：「村」のしくみ（2）

村の領域，土地の私有と総有，土地意識の持続と変容

第7回：「村」のしくみ（3）

村の共同と組織・運営，共同の変容と村落内関係

第8回：暮らしの組織（1）

社会的なかま（講と組），社会的なかまの現在

第9回：暮らしの組織（2）

擬制的家族関係（社会的オヤコ），年齢階梯制，村落類型の現在

第2部：戦後日本農村の変動

第10回：農村の変動を見る視点

歴史的变化の折り重なる現在という捉え方，時々の経済情勢と農業政策の影響，4つの画期

第11回：戦後改革期における農業・農村の変革

戦前農村との連続と断絶，農地改革の経緯と帰結，自作農化と零細化，農村構成の大転換

第12回：高度経済成長期における農業・農村の変動

経済成長政策と農業基本法，基本法の3政策，基本法農政のねらいと帰結，
農家・農村の新たな変容，「過疎」の始まり

第13回：低成長・生産調整期における農業・農村の苦境

ポスト成長期の農政，「減反」の開始と拡大，機械化と兼業化の同時進行，
変わる家と村（多就労，世代夫婦連合，同族結合・村ぐるみの衰退など）

第14回：グローバリズム期の農業・農村問題（1）

1990年代の農政転換とグローバル化，新農業基本法とWTO農業交渉，
多面的機能論と環境調和型農業の取組，新しい農家共同の動き

第15回：グローバリズム期の農業・農村問題（2）

「新しい農村問題」の生成，食と農をめぐる新しい都市農村関係の動向，
「家」と「村」の持続と変容，農村社会の将来像に向けて，期末レポートの課題説明

事前・事後学習

- ・ 予習：教科書および参考資料の該当する章を予習しておくこと（1時間程度）。
- ・ 復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること（1時間程度）。